

2025年(令和7年)4月オホーツク管内倒産集計

令和7年5月1日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

年初から4か月連続の発生

発生件数2件、負債総額2億2,646万円

■前月比	件数	1件増加(令和7年 3月	1件)
	負債総額	1億9,028万円増加(3,618万円)
		〃	
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(令和6年 4月	2件)
	負債総額	2億9,382万円減少(5億2,028万円)
		〃	

令和7年4月の発生状況

令和7年4月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生2件、負債総額2億2,646万円だった。発生企業は北見市内の建設業者と製材業者。建設業者(令和3年設立)は一般個人住宅主体で事業を行うも資材高騰や新築着工数減少の影響で受注は低迷。今年に入り代表者の体調不良もあって事業継続が困難となり、3月21日付で事業を停止し破産手続開始決定に至った。製材業者は留辺蘂地区で昭和15年に創業した老舗企業。道産針葉樹による内装材を手がけ令和3年12月期には2億8千万円の年商を計上したが、その後は下降線を辿り直近決算では5千万円まで減少。収益面も赤字決算が続き資金繰りも限界に達したことから破産手続開始決定に至ったもの。

これで倒産発生は4か月連続。年初から重苦しい空気が続いている。

過去5年間と今年1月～4月の発生推移

過去5年間の1月～4月の発生推移は【右・表】の通りで、平均発生件数は4.4件。同負債総額は5億3,864万円となっている。

断続的に倒産発生が見られる今年は過去5年間の平均額を大きく上回っており、今後の動向が懸念される状況だ。

過去5年間と今年1～3月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2020年	6件	11億3,800万円
2021年	6件	3億3,700万円
2022年	0件	0円
2023年	4件	3億2,000万円
2024年	6件	8億9,820万円
2025年	6件	9億1,289万円

今後の見通しと問題点

国内全体では観光産業や一部個人消費などで活発な動きが見られるものの、エネルギー価格をはじめとする各種物価高騰や高止まりが暗い影を落とし、さらには深刻な人手不足や人件費上昇に伴う負担増などが大きく影響し、道内でも倒産件数の増加が顕著となっている。さらに、各金融機関において金利の引き上げが着々と進むほか、4月からは物価高騰の流れが加速して収益を圧迫しており、今後はトランプ関税による影響を懸念する声も多く聞かれている。

オホーツク管内では昨年後半の落ち着いた様相から状況が一変し、年初から4か月連続で倒産が発生するなど重苦しい空気が漂う。各中小事業者は商品やサービスへの価格転嫁や経費削減等様々な事業展開で経営基盤の立て直しに奔走するものの、物価高騰や深刻な人手不足など取り巻く環境は一層厳しさを増しており、先行き不透明感が拭えない状況が続いている。

